

2007年10月29日

北海道知事 高橋はるみ 様

「天塩川水系河川整備計画」の策定に抗議する  
-10月16日北海道開発局長記者会見についての見解

私たちの要望書に対してご回答いただき、ありがとうございました。

私たちは、貴職が天塩川水系河川整備計画案を吟味が不十分なまま容認されたことを残念に思い、抗議したいと考えています。もっとも抗議したい点は、自治体の意見のみ聞くことで了とされたことです。10月26日に旭川市役所における記者会見で明らかにした、抗議と今後の私たちの運動について述べた見解を別紙で送付致します。見解にも紹介しましたが、熊本県知事の「国交省の説明に住民は納得していないので国交省は説明責任を果たすように」という意思で、国交省は決め細かな住民説明会を実施中です。将来に大きな禍根を残す可能性の大きなダム建設について、自治体ではなく道民から選ばれた知事は、いまからでも遅くない、ぜひ熊本県と同様に道民本位の対応をしていただきたい。

私たちは引き続き、ダム事業費の問題など貴職に説明を求めていく予定です。引き続きご回答を求めたいので、よろしくお願い致します。

なお、この件に関する問い合わせは、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel&FAX：011-251-5465）へお願い致します。

下川自然を考える会

会長 桑原 友一

サンルダム建設を考える集い

代表 渋谷 静男

名寄サンルダムを考える会

代表 竹内 和郎

サンル川を守る会

代表 橋本泰子

ネットワーク旭川地球村

代表 山城えりこ

北海道の森と川を語る会

代表 小野有五

大雪と石狩の自然を守る会

代表 寺島一男

社団法人 北海道スポーツフィッシング協会

2007年10月29日

北海道開発局長 鈴木 英一 様

「天塩川水系河川整備計画」の策定に抗議する  
—10月16日北海道開発局長記者会見についての見解

私たちは、貴職が10月16日に記者会見において天塩川河川整備計画を策定したと述べたことに抗議します。私たちの疑問に対して、何ら具体的な回答をせずに「ご理解願いたい」と回答した姿勢は、封建時代の「よらしむべし、しらしむべからず」という姿勢ではないでしょうか。きわめて問題だと認識しています。抗議と今後の私たちの活動についての見解を10月26日に旭川市役所で記者会見をして発表しましたので、別紙の見解を送付いたします。

整備計画が策定されたとしても、何ら問題が整理されていないので、引き続き話し合いを求めるとともに、疑問点を質していきます。また、広く道民に、貴重が自然を破壊してまでダムを建設すべきなのか、広く道民に訴えていく所存です。

治水、利水および環境の両立と、住民等の意見を反映して計画を策定するという河川法の考え方にのっとり、引き続き活動し、素晴らしい環境を現在と将来に残していくために、お互いが率直に話し合うことが重要と考えていますので、今後、真摯な対応をお願い致します。

なお、この件に関する問い合わせは、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel&FAX：011-251-5465）へお願い致します。

下川自然を考える会

会長 桑原 友一

サンルダム建設を考える集い

代表 渋谷 静男

名寄サンルダムを考える会

代表 竹内 和郎

サンル川を守る会

代表 橋本泰子

ネットワーク旭川地球村

代表 山城えりこ

北海道の森と川を語る会

代表 小野有五

大雪と石狩の自然を守る会

代表 寺島一男

「天塩川水系河川整備計画」の策定に抗議する  
－10月16日北海道開発局長記者会見についての見解－

1. 「天塩川水系河川整備計画」策定に強く抗議する。

10月16日に、北海道開発局長が天塩川水系河川整備計画を策定したことを記者会見で発表した。私たちはこの策定について強く抗議する。その理由は、この計画、とくにサンル川にダムを作る計画は、過大な目標流量の設定によって後世まで残すべき環境を破壊する恐れが高いにもかかわらず、私たちの疑問にはまったく回答しないなど、十分な検討を行わずに決定したからである。

開発局は、整備計画策定において住民等の意見を聞くという方針を掲げ、ホームページに寄せられた意見を掲載するとともに、それについての開発局の考え方を示してきた。私たちは流域委員会が開催されているたび毎に説明を求めてきたが、回答されていない問題が多々残されてきた。そこで回答が示されていない点（冊子「サンルダムへの疑問」としてまとめた）について、繰り返し回答を求めたが、開発局は最後まで具体的な回答をしてくれなかった。これは議会でいえば答弁不能にあたることであり、結局、開発局は十分な説明責任を果たさないまま、整備計画を策定したことになる。国民の多大な税金を使って行う事業にこのようなことがあってはならない。開発局は今からでも未回答の疑問に答えて、行政の責任を果たすことを強く求める。

開発局は私たちの意見・疑問を無視し続けてきた（別紙参照）中で、8月に河川整備計画案が示された。そこで、私たちは改めて、私たちの疑問に答えるよう開発局長に申し入れる（資料3）とともに、北海道知事に対して開発局が私たちの疑問に答えないまま、知事意見を述べないよう申し入れを行った（資料4）。これに対する回答が10月15日に寄せられた（資料5と資料6）。

1.1 説明責任をまったく果たさない開発局の回答

開発局の回答（資料5）は、「これまでいただいた様々な意見については、考え方等の関連資料によりご理解いただけるものと考えております」であった。私たちが具体的に回答を求めたことに対して、結局何一つ回答しないにもかかわらず、「ご理解いただける」と回答をする精神に啞然とし、行政としての説明責任を放棄したといわざるを得ない。

1.2 道民意見に真摯に耳を傾けない北海道の回答

10月半ばになって北海道知事からは、1) 開発局は広く道民の意見聴取をしたと承知し、2) 流域市町村すべてから異議がなかった、3) 知事も異議がない、ことを開発局長に回答した、と私たちに回答がなされた（資料6）。知事の回答について、1) 開発局が道民の意見を聞いたと言っていることを鵜呑みにして、私たちが示した問題点を無視していること、2) 開発局が行ったアンケートでは、ダム賛成が7%しかなかったのに地方自治体首長は異議がないとしたことだけを取り上げ、自治体と住民との意識の違いに考慮を払わなかったこと、

流の正常流量は現状維持なのに、名寄川だけ約 2 倍に設定しているのも、ダムのためではないかという点を追求していく。

3) サクラマス資源の保全問題・・・サクラマス保全については、あいまいなまま事業を推進する危険性があり、この点を追及していく。サクラマスが保全されるかどうかをどのようにして決めていくのか、専門家の意見を聞くと述べているが、具体的にいつ聞くのかなど、サクラマス保全の検討の進め方について追及していく。

4) サンルダム建設費を 530 億円以内にするという開発局の約束の根拠を早急に提出することを求めていくとともに、これに対する北海道知事の考え方を質していく。

3.2 道民に広くサンル川を守ることの重要性訴えるとともに、住民等との話し合いを拒否し続ける不公正な対応を批判していく。具体的にはシンポジウムや出版物による。また、北海道内の多くの団体や個人と連携を強化し、全国のダム問題の取り組みとも連携して活動を進める。具体的に考えられることは

- 1) サクラマス資源の保全の重要性
- 2) サクラマス資源を危うくしてまでサンルダムを作る必要があるかどうかの検証：治水・利水と環境の両立
- 3) ムダな公共事業ではないのか（ダム事業費の検討も含む）、サンルダムは地域振興になりうるのかなど、地域振興の進め方を検討する。
- 4) 河川整備計画策定における住民等の意見の取り扱い
- 5) その他

下川自然を考える会

会長 桑原 友一

サンルダム建設を考える集い

代表 渋谷 静男

名寄サンルダムを考える会

代表 竹内 和郎

サンル川を守る会

代表 橋本泰子

ネットワーク旭川地球村

代表 山城えりこ

北海道の森と川を語る会

代表 小野有五

大雪と石狩の自然を守る会

代表 寺島一男

社団法人 北海道スポーツフィッシング協会

会長 藤本靖

早急に回答されること」を要望した（資料3）。北海道知事には「住民等から別紙のような要望書が出ているので、まず開発局が住民等からの疑問に答えた後に、開発局から知事へ照会されるようにしていただきたいという主旨を開発局に回答するよう」要望した（資料4）。これ以降の経過については本文に記述してある。